

(4) 様式 4_助成事業実施報告書

2017年 9月 2日

助成事業実施報告書

団体名 社会福祉法人二葉保育園 自立援助ホームトリノ
代表者・役職名 氏名 施設長 渡辺 剛史

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

子どもの大学進学へ向けオープンキャンパス等への参加

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

今から110余年前、東京、四谷の路傍には放置されている多くの貧しい子どもたちを見かけました。社会福祉法人二葉保育園の創設者野口幽香、森島峰両先生はキリスト教の愛の精神に動かされ熱い思いで貧しい子どもたちのための幼稚園を創設したのが始まりです。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

自立援助ホームは全国に1300箇所ほど、知名度も低く予算も決して多いとは言えません。入居してくる子ども達は様々な問題を抱えながら社会に自立するため日々生活を送っています。その中で一人の子どもが将来福祉の仕事に携わりたいという夢を見つけました。職員としてもその夢を後押しすべくこのプロジェクトを計画しました。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

8月の末に進学を希望する大学のオープンキャンパス及び奨学生面接が実施される為、それに参加し、学校の雰囲気や、周りの環境を知る機会を設ける。同時に奨学生の面接にも挑戦し合格を目指したいと思っております。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

実際にオープンキャンパスに参加することにより、大学の雰囲気や、周りの環境と知ることが出来ました。そのことにより、本人も大学生生活への具体的なイメージを持つことが出来ました。奨学生の方も無事に合格することが出来、9月のAO入試へ向けに準備をしています。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字程度まで

今回自立援助ホームから大学進学を実現させることにより、今援助ホームで生活している子や、今後援助ホームで生活する子ども達も、進学する事も可能だということのいいモデルになる事が出来れば幸に思います。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし